

9 - 1 九州地方とその周辺の地震活動 (1998 年 5 月 ~ 1998 年 10 月)  
Recent Seismic Activity in and around Kyushu District  
( May, 1998-October, 1998 )

福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

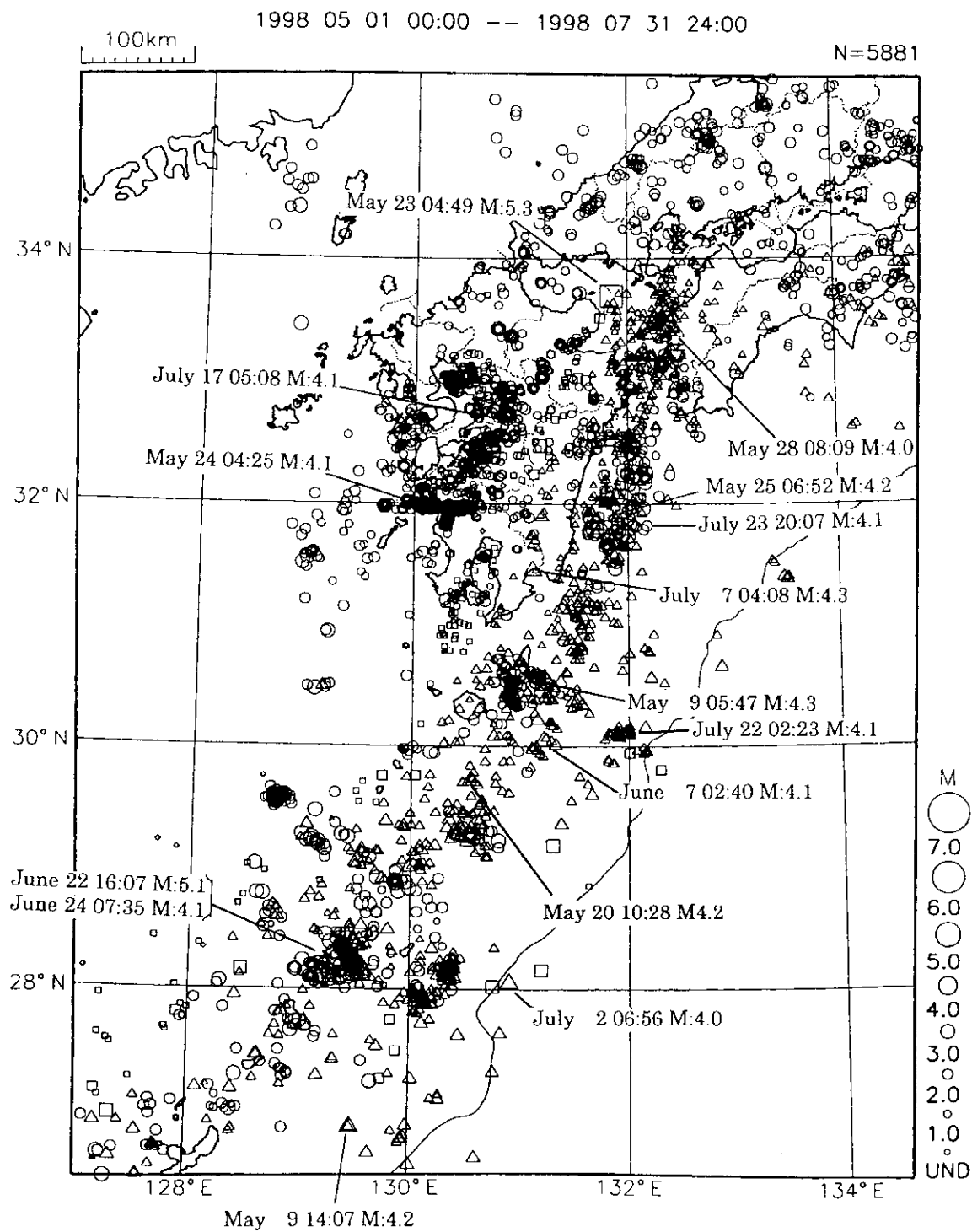
1998 年 5 月 ~ 7 月 ,1998 年 8 月 ~ 10 月の各 3 ヶ月間の震央分布図をそれぞれ第 1 図(a)と(b)に示す。図の領域内で M4.0 以上の地震は合計 21 回発生した。M5.0 以上の地震は 3 回発生し、最大の地震は 10 月 3 日に発生した東シナ海の地震で M5.8 であった。

5 月 23 日に周防灘で M5.3 の地震 ( 深さ 85km ) が発生し、山口県及び大分県の一部で震度 4 を観測したほか中国、四国、九州から近畿、北陸、東海地方の一部にかけての広い範囲で震度 1 以上を観測した。

鹿児島県薩摩地方では昨年 3 月 26 日及び 5 月 13 日の地震の余震活動が続いているが、活動はかなりおさまってきている ( 詳細は別項を参照 )。

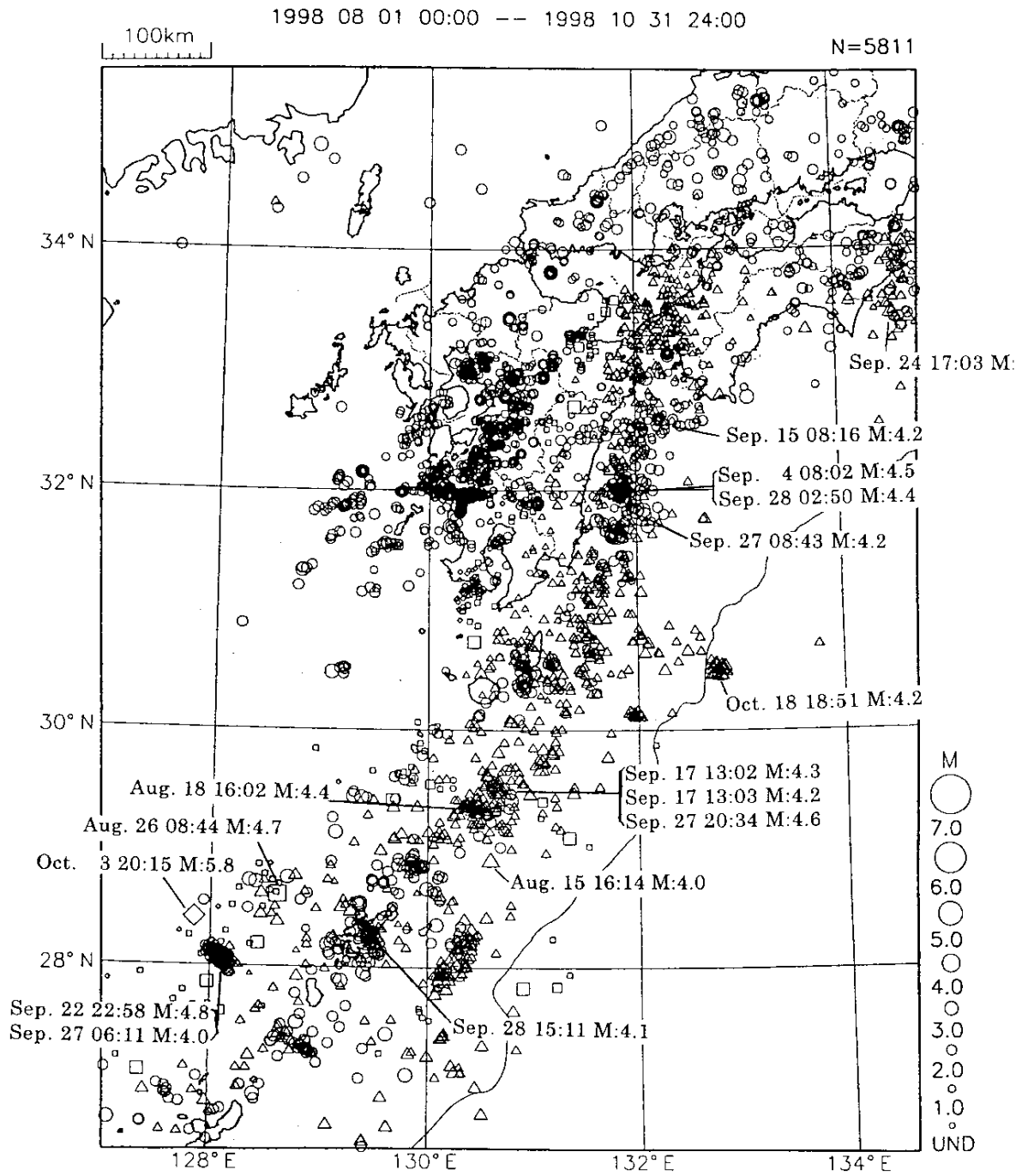
10 月 3 日に東シナ海で M5.8 の地震 ( 深さ 220km ) が発生し、名瀬市及び国頭村で震度 3 を観測した。この地震の発震機構解は北西 - 南東圧縮の逆断層タイプで求まっており、フィリピン解プレートのもぐり込みに伴う地震である。

また、最近やや規模の大きな地震が発生した奄美大島近海 ( 1995 年 10 月 18 日 M6.6 , 同年 10 月 19 日 M6.5 , 1997 年 1 月 17 日 M6.0 ) , 種子島近海 ( 1996 年 9 月 9 日 M5.7 , 同年 10 月 18 日 M6.2 ) で引き続き活発な余震活動が見られたほか、奄美大島近海等で一時的に活動が活発になる地域があったが、地震活動としては全般的に比較的低調であった。( 種子島近海から奄美大島近海にかけての地震活動の概要を第 2 図に示す。 )



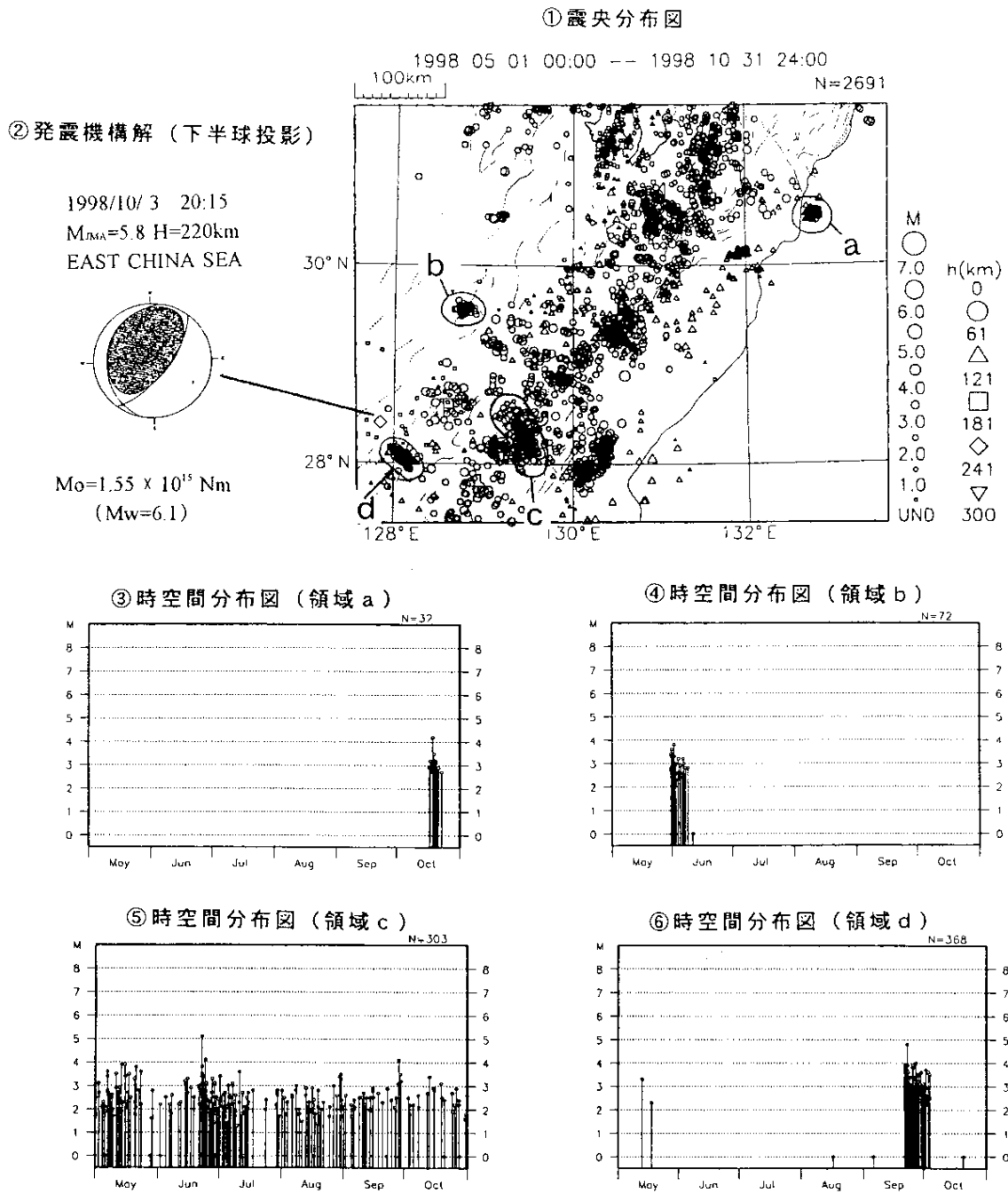
第 1 図(a) 九州地方とその周辺の震央分布図(1998 年 5 月 ~ 1998 年 7 月)

Fig.1(a) Epicentral distribution in and around Kyushu District (May, 1998-July, 1998).



第1図(b) 九州地方とその周辺の震央分布図(1998年8月~1998年10月)

Fig.1(b) Epicentral distribution in and around Kyushu District (August, 1998-October, 1998).



第 2 図 薩南諸島の地震活動

震央分布図(1998 年 5 月 ~ 1998 年 10 月) 発震機構解 (下半球, CMT 解) M - T 図 (領域 a) M - T 図 (領域 b) M - T 図 (領域 c) M - T 図 (領域 d)

Fig.2 Seismic activity near Satsuma island

Epicentral distribution(May, 1998-October, 1998) Focal mechanism solutions(lower hemisphere, CMT solution) M-T diagram (in region a) M-T diagram in region b M-T diagram (in region c) M-T diagram (in region d).